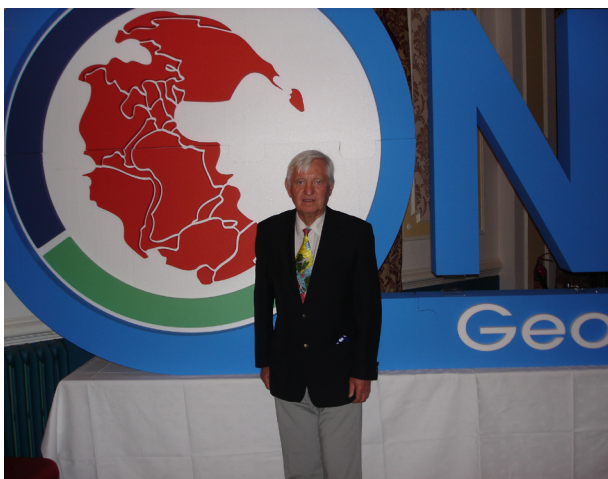




GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 46

OneGeology プロジェクトが立ち上がる

D. R. フレイザー・テイラー博士
カナダ・カールトン大学・国際関係地理環境研究教授
ISCGM 委員長



D. R. フレイザー・テイラー博士

英国ブライトンにおいて、43カ国から81名が参加し、国際惑星地球年への貢献として、世界の100万分の1地質図の整備について検討するワークショップが2007年3月12日～16日の間開催されました。この取り組みを行う意義について満場一致で合意され、参加者はブライトン合意を取りまとめました（以下、抜粋）。

「地質図データが科学や教育の向上に欠くことのできないものであり、これにより環境災害を軽減し、エネルギー、鉱物、水の安定供給を保証し、我々が直面する気候変動に緊急に対処するための解決策が提供できることを、我々参加者はワークショップにおいて強調した。」

OneGeology の使命：

「OneGeology は国際惑星地球年の一環として世界中の地質調査所が取り組むイニシアティブであり、これにより100万分の1を手始めとして世界規模で最高品質の地質図データを公開、インターネットでのアクセスを可能にし、社会のニーズにさらに取り組む。」

より詳しい情報はウェブサイト (<http://www.onegeology.org/>) にあります。

地球地図国際運営委員会（ISCGM）は、ワークショップの積極的な参加者であり、テイラー委員長が代表して二件の発表を行いました。一件は「地球地図の経験：OneGeology のための課題」、もう一件は「地球地図のOneGeology への貢献の可能性および小縮尺での他の地質図作成の取り組み」でした。ISCGMは、二つのプロジェクト間で多くの類似性があるため、OneGeology に協力し、プロジェクトに助言を行う国際運営委員会に参加することに合意しました。

CODI-V 短報

エリウド・モキ（ケニア測量局）・佐藤 潤（JICA ケニア）



エリウド・モキ氏（左）と 佐藤 潤氏（右）

1. はじめに

第 5 回情報開発会議（CODI-V）が 2007 年 5 月 1 日から 4 日にかけて、また関連するワークショップ等がそれに先立ち 4 月 29 日及び 30 日の両日、アディス・アベバで開催されました。CODI-V のテーマは「アフリカにおける雇用と知識経済 (Knowledge Economy)」でした。

ケニア測量局及び JICA から筆者らが参加しましたが、地理情報分科会における活動が主たる関心事でした。

2. 出席者

地理情報分科会には、以下の正式加盟国の代表が出席しました。

アルジェリア、ベニン、ボツワナ、ブルキナ・ファソ、ブルンジ、カメルーン、コート・ジボアール、コンゴ民主共和国、エチオピア、ガボン、ガーナ、ケニア、リベリア、マダガスカル、モロッコ、ナミビア、ニジェール、ナイジェリア、コンゴ共和国、セネガル、南アフリカ、スーダン、スワジランド、タンザニア、ウガンダ

また、アフリカ以外の欧米や日本などからも、多くの組織からオブザーバーが参加しました。

3. 地理情報分科会の活動

同分科会では、以下の諸点について国際的な観点も含め議論しました。

- 1) ISO19115 に準拠したメタデータ標準
- 2) メタデータ構築ツール
- 3) 基盤的データセット
- 4) 視覚化を行うための製品やアプリケーション
- 5) GIS に関連した国連アフリカ経済委員会 (ECA) の活動
- 6) 国連地名専門家グループにより検討された地名

7) ESRI 社による ArcGIS Explorer のデモンストレーション

8) グーグル・アースの活用による「Tracks for Africa」構想

9) RCMRD 及び RECTAS による教育訓練

4. 地理情報分科会における決議（抜粋）

1) 地名の標準化に関して

- 分科会は、加盟国に対し、国の社会文化的な背景も配慮しながら地名の標準化を進めるよう勧告する。
- 分科会は、ECA が国連経済社会委員会及び地名専門家グループと連携しつつ、次回地名専門家グループ会合をアフリカで開催するよう推進する。

2) 土地情報管理システム (LIMS) に関して

- 分科会は、ECA 加盟国に対し、以下の実行を勧告する。
 - (a) ECA 及び関係機関が策定した LIMS の様々な原則を考慮し採用すること
 - (b) 土地に関する基本政策を LIMS に反映させること
 - (c) 他の社会問題への対処と同様に LIMS へも適切に予算を配分すること

3) 空間データ基盤 (SDI) と基盤的データセットに関して

- 分科会は、GNSS 技術に基づいて統一的な測地座標系の構築に励む AFREF の活動を支持することを繰り返し表明する。
- 分科会は、各加盟国が AFREF の活動等に応じて GNSS の固定観測点を国内に少なくとも 1 箇所は設置するよう推進する。
- 分科会は、ECA に対し、以下の実行を要請する。
 - (a) 固定観測点設置に向け、各地域レベルでトレーニングのためのワークショップを企画すること
 - (b) 加盟国が衛星画像を購入しやすくなるようプロバイダーに働きかけること
 - (c) 「アフリカ自身のための地図作成プロジェクト」(MAFA) にいっそう配慮し、加盟国の SDI 整備の活動に資金的なてこ入れをすること

4) アフリカのためのメタデータ・プロファイルに関して

- 分科会は、ISO19115 に準拠したアフリカ版プロファイルの開発を支持し、MAFA の目的を実現するよう援助する。
- 分科会は、ECA に対し、地理情報関係の専門家による支援を得ることにより、適切なメタデータ・ツールを開発し、ISO19115 に準拠したアフリカ版プロファイルの策定を進めるよう要請する。
- 分科会は、ECA 及び特別の機関が ISO/TC211 の活動に参加し、アフリカにおける地理情報

関係者に適切な標準を普及する仕組みを構築するよう奨励する。



全体会合の開会の模様

地球地図の学校

木佐貫 順一
ISCGM 事務局



日本側での交流授業の様子

2006年9月30日、日本・フィリピン国で行われた第1回「地球地図の学校」に引き続き、2007年3月20日、日本とタイ国との学校の間で第2回「地球地図の学校」が開催されました。「私たちの国へようこそ」というテーマで交流授業が行われました。

日本側は、第1回と同様、慶応義塾普通部・中等部、タイ国側は Princess Chulaborn's College Nakhon Si Thammarat の生徒らが参加しました。

日本からは生徒自らが調べ、収集した写真を使い、学校の周りの環境や、東京および日本の紹介、またタイからは学校のあるナコンシタマラートの最近の様子、マングローブ林からエビ養殖場への変化、海岸浸食などを写真を使いながら説明し、遊び、映画へと話題が広がりました。インターネット環境の違いにより、タイから送られる画像、音声の状態が良好とはいえず、そのため予定より約

1時間延長されましたが、参加者全員最後まで熱心に授業に参加しました。慶應義塾大学のタイからの留学生も通訳として応援しました。

このプロジェクトを中心となって推進している慶應義塾の太田先生は「生徒間で対話が始まり、厳しい回線状況の中であったが、それぞれの関心事が交換できた。」、また生徒からは「回線が良くなかったけれども、タイのことや、相手の関心事を知る機会ができて、よかった。」と感想が寄せられました。日本では、テレビ、新聞の取材もあり、大きくとりあげられました。

交流授業の後、「地球地図の学校」プロジェクトを推進している「地球地図の学校」実行委員会も併せて開催されました。教育の現場で地球地図のみならず、デジタル地図をどのように教育の分野で普及していくのか、現場の先生や、地図制作関係者の間で意見交換が行われました。



タイからの映像（インドシナ半島）

第 13 回 PCGIAP 会合及び SEG に関するワークショップ

ジアン・シアオホン
PCGIAP 事務局



第 13 回 PCGIAP 会合及び SEG に関するワークショップ参加者

第 13 回アジア太平洋地域 GIS 基盤常置委員会 (PCGIAP) 会合が 2007 年 6 月 12 日～15 日、韓国・ソウルの COEX 会議センターにおいて開催されました。韓国国立地理情報院 (NGII) が本会合を主催しました。

本会合のプログラムには、政府の空間情報活用及び国家空間データ基盤 (NSDI) に関する国際ワークショップ-政策の関わり-、本会議、分科会、2 回開催された理事会会合及び GIS コリア 2007 の視察などが盛り込まれました。

政府の空間情報活用 (SEG) 及び NSDI に関する国際ワークショップ-政策の関わり-は、PCGIAP・WG3 と全地球空間データ基盤 (GSDI) 協会の共催により 2007 年 6 月 12 日に開催されました。本ワークショップには 14 カ国から 125 名の代表が参加しました。政府や社会による空間情報活用の国家的利用を見直し、空間データ基盤 (SDI) の整備に関連したデータの共有及び協働の展開、SDI 投資のための原動力、SDI の費用便益研究及びデータ・アクセス政策など、法律的、経済的な問題が取り上げられました。5 カ国 (オーストラリア、韓国、マレーシア、シンガポール及び日本) からの招待発表が行われ、今後の方向性や進め方に関して情報交換と意見交換のためにパネル・ディスカッションが行われました。

PCGIAP 会合には、11 参加国・4 国際機関から約 60 名の参加がありました。2006 年 9 月 18 日～22 日、タイ・バンコクにおける第 17 回国連アジア太平洋地域地図会議 (UNRCCAP) / 第 12 回 PCGIAP 会合以降の活動及び作業計画の進捗について、理事及びワーキング・グループレベルで、それぞれ報告が行われました。また、第二次レベル行政界 (SALB)、地球地図国際運営委員会 (ISCGM)、GSDI、米州空間データ基盤常置委員会 (PCIDEA) 及び ISO/TC211 等のリエゾン機関からの報告がありました。同時開催のワーキング・グループでは、今後 2 年間の各分野の作業計画が検討され、見直されました。

GIS コリア 2007 の視察は参加者全員にとって興味深く見ごたえのあるものでした。GIS 整備をとりあげたこの博覧会は、韓国建設交通部の主催により、毎年開催されるもので、韓国の GIS 産業の最新の製品とサービスを披露するとともに、韓国の GIS 産業の社会面、経済面、また環境面における進歩への貢献を展示しています。

PCGIAP 会合は 7 件の決議を採択し成功裏に終了しました。PCGIAP の次回の理事会はオーストラリア・キャンベラにおいて 2008 年初頭に開催される予定です。

UNGPM フラスカティ会合

クリス・ヒギンズ

EDINA

エディンバラ大学データ・ライブラリー



クリス・ヒギンズ氏

2007年3月1日及び2日、イタリア・フラスカティの欧州宇宙機構の施設で開催された国連空間データ基盤 (UNSDI) グローバル・パートナーズ会合において地球地図の発表が行われました。本会合では、地球地図は核となる全球データとして紹介され、ISCGM は重要な戦略的パートナーとして認められました。

UNSDI の取り組みは比較的新しく、国連地理空間情報ワーキンググループ (UNGIWG) の活動から、最近2、3年の間に具体化しました。手短かに述べると、その将来像は、地理空間データや技術が用いられる様々な国連の活動のなかで、最も重要な空間データ基盤 (SDI) の課題が技術ばかりでなく制度的なものであることを認識し、相互運用性を最大限に高め、重複を避けることです。

グローバル・パートナーズ会合の趣旨は、SDI 構想を整備し、全球を対象とする様々な規模のSDI の実施につぎ込まれる膨大な作業量にてこ入れするために手段を探すべきという、チリにおけるGSDI9 会合の議論とUNGIWG の認識に端を発しました。このため、82名の人々が、広範な国連加盟国、標準化策定機関、国連機関、様々

なSDI の取り組み主体、科学組織や民間部門を代表しフラスカティに集まりました。

二日間にわたり多くの発表が行われるとともに、分科会、パネルセッションや非公式なネットワーク作りの機会が十分に設けられました。主要なパートナーとの間での持続可能な協力の必要性、持続的な資金調達、技術変化に対応して展開するためのUNSDI のメカニズム、全球レベルの指令の必要性及びヨーロッパのINSPIRE の取り組みから学んだ教訓など、いくつかの課題が極めて明確に浮上しました。

地球地図の私の発表は、ISCGM と、UNGIWG など多くの国連機関との間での現在までの非常に成熟した関係や協力について手短かに触れました。地球地図は核となるデータであり、UNGIWG はUNSDI 上で協力関係が成り立つよう検討すべきとの課題が参加者に投げかけられました。これには、地球地図を他の核となるデータと調和させるといった技術的な問題と、ISCGM が過去10年にわたり構築した国家地図作成機関の窓口との連絡網をもとにしていることなどの制度的な事柄も含まれるでしょう。また人材育成も協力の可能性のある重要な分野であると確認されました。

その後の議論でこれらの考えが十分に受け入れられたことがわかったため、ISCGM とUNGIWG との間でさらに話し合いが持たれることになるでしょう。UNSDI 整備の次の段階は現在UNGIWG で作業中の「UNSDI 戦略実施計画」文書にまとめられるようです。UNSDI 関係の文書や詳細は<http://www.ungiwg.org/unsdi.htm>を参照することができます。

(2007年4月20日記)

事務局から

ISCGM 新事務局長からの挨拶



福島新事務局長

ISCGM 新事務局長の福島芳和です。ISCGM 規約第 22 条第 2 項により 2007 年 4 月にテラ委員長より任命されました。実際のところ、私は、1999 年から 2000 年までの間、事務局業務に携わっておりましたので、2 回目の事務局の経験となります。私が以前事務局業務に携わっていた当時と比べ

ると、地球地図プロジェクトとこれを取り巻く環境が大きく進展したことを驚きをもって実感しています。

まず、2002 年にヨハネスブルグで開催された WSSD において、地球地図整備の促進が“WSSD の実施計画”で述べられ、ISCGM は 2007 年までに全

球の地球地図の整備を宣言しました。また、2005 年に地球観測にかかる国際的な枠組みが構築され、世界共通の基盤的地理情報を提供する地球地図の重要性が増したところです。この動きに伴い、参加国数は 2000 年当時 81 カ国・地域でしたが、2007 年 5 月現在 172 カ国・地域となり、データ公開国数も、6 カ国から、37 カ国・地域と大きく伸びてきました。このようにプロジェクトの順調な発展は、前任である丸山弘通氏の 4 年間の功績に負うところが大きいと考えます。

2007 年という目標年に事務局長を拝命することとなったのは、私にとって大きなチャレンジですが、ISCGM のメンバー及び顧問の方々、国家地図作成機関の関係者、そしてこの重要なプロジェクトを支持する多くの方々の支援をいただき、テラ委員長の下、目標達成に向け全力で取り組んでまいりますので、今後ともよろしく願います。

データ公開

2006 年 12 月 25 日付の前の報告以降、10 カ国の地球地図が公開されました。公開国名と公開日は：ガーナ（2007 年 3 月 14 日）、ベトナム及びマレーシア（3 月 23 日に同時公開）、南アフリカ（4 月 13 日）、バーレーン（5 月 7 日）、カナダ（5 月 16 日）、シンガポール（6 月 5 日）、ニュージーランド（6 月 14 日）、キューバ 6 月 18 日及びサウジアラビア（6 月 21 日）です。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2007 年

- 6 月 27 日～29 日、モンゴル、ウランバートル
優れた土地管理に関する国際ワークショップ
— 経済発展におけるその役割 —
- 7 月 14 日、英国、ケンブリッジ
第 14 回 ISCGM 会合
- 7 月 15 日～20 日、英国、ケンブリッジ
ケンブリッジ会議
- 8 月 4 日～10 日、ロシア、モスクワ
第 XXIII 回国際地図学会議 (ICC2007)

- 9 月 17 日～21 日、ブルキナファソ、ワガドゥグー
アフリカ GIS 2007

- 10 月 28 日～11 月 2 日、中国、西安
第 25 回 ISO/TC 211 本会議及び WG 会合

2008 年

- 2 月 25 日～29 日、トリニダード、セントオーガスティン
GSDI-10
<http://gsdi.org/gsd10>
- 7 月 7 日～11 日、中国、北京
第 XXI 回 ISPRS 会議

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305 - 0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029 - 864 - 6910 Fax: 029 - 864 - 6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org